



さくら

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2022年3月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870

目次

各種表彰受賞者名簿	2
令和3年度の活動	3
合同視察研修	4
部会・委員会活動	5
地域を訪ねて	6
中学生俳句	7
さくらアンケート	8
編集後記	



「ほらあなにかえるドラゴン」 西伊興小 4年 飛田 隆羽 作

コロナ禍を生きる

足立区民生・児童委員協議会 会長職務代理 野辺陽子



「立春が過ぎてもなお厳しい寒さが続いていますね。メジロが椿の花に蜜を求めて遊びにきています。お変わりありませんか」とか「寒い日が続きます。体には十分気をつけて、良い正月を迎えて下さい」など活動報告書の封筒の表裏に、なんとも心あたまるやさしい言葉が書かれています。毎月

始めに活動報告を提出する度にほんの数行の文の中に、民生・児童委員としても心配りや温かさを感じさせ私の気持ちをなごませてくれるのです。この二人の委員さんは、きっとやさしい気持ちで、高齢者や子ども達に接していることは想像に難しくありません。

コロナのまん延もそろそろ二年になります。今まで行われてきたさまざまなイベントも、計画をしては中止となり、会議も人数を少なくして時々は開かれます。その時の委員同士の挨拶も「お久しぶり」「ご無

沙汰しています」と何十年ぶりに開かれたクラス会のような有様です。また、長く会えていない友人と電話をするとついつい長電話となり、切る時はきまって「コロナが収束したらね」で終わります。

人間は一人では生きていけないという言葉がつくづく身にしみます。人と人との絆が断ち切られたと言っても決して過言ではないと思います。

各々の委員が担当する高齢者の方などへの訪問は自粛となっているために、せめてもの交流をとという事で行った往復ハガキでの安否確認も二度目となると期待するような結果も得られないようです。なかなか良い方法を見つけることができずに歯がゆい思いでいっぱいです。静かにコロナの収束を待つことが、一番の方策なのでしょうか。

封筒の裏に書かれた一文が妙に心にしみります。「暖かな昼間、庭に出て家の前を通る高齢者の方に声かけをしています。」と。



令和三年度 民生・児童委員各種表彰受賞者名簿

敬称略

東京都知事表彰

(基準日＝令和3年10月1日現在)

(合同、地区、番号の順)

規則表彰

在職期間20年以上の方(2名)

中田美佐子 渡邊 進

特別功労賞

在職期間17年以上の方(3名)

小林 尚子 小張 悦子 下岡 博子

一般功労

在職期間10年以上の方(82名)

鈴木 昭	大熊 純子	平瀬 美保	古屋 恵子	吉田 祐一	谷茂岡 昭	田中真季子
江川 明美	鶴田 晴久	下島 利代	坂井 孝治	高木しのぶ	鈴木 敏江	木内 信雄
吉村 清江	藤田 妙子	山本 滝子	出口 愛子	金子 正邦	齊藤久仁子	山崎 秀夫
坂下 政子	新井 清子	堀越 英行	山口 弥生	小宮 昇治	遊馬 正子	藤沼 次男
野本由紀子	櫻井 春子	佐久間幸恵	伊藤 直	和田 静江	志賀口博人	小宮久美子
稲塚由美子	下開 慶一	小貝 智章	小泉 朋子	西村 良夫	清水 政代	足立由美子
式見 恵子	梅原佐知子	増山 元美	宇田川 毅	土屋 幸夫	福原 稔	山本 住子
石崎 裕一	宇田川伸孝	高橋さだ子	稲田 益巳	鈴木 健治	佐藤 洋子	大内美智代
齊藤千恵子	高橋 良子	瀬山 春美	小林美代子	小木曾ひろみ	三浦 仁子	金宮 和代
谷古宇マサ子	田中美代子	石鍋 勝政	中里奈奈世	町井 良文	金子みどり	貝間 正敏
石井 達雄	益塚 賢治	西野いちよ	齋藤 敏彦	寺山 早苗	首藤 広行	鈴木 恒雄
近 ミサ子	河内富士子	高橋 和枝	高橋 絹江	岡村 徳重		

全国民生委員児童委員連合会会長表彰

(基準日＝令和2年11月30日現在)

功労者表彰

在職20年以上の方(2名)

清水あけみ 草間 雅子

永年勤続

在職10年以上の方(84名)

鈴木 昭	大熊 純子	平瀬 美保	古屋 恵子	吉田 祐一	谷茂岡 昭	田中真季子
江川 明美	鶴田 晴久	下島 利代	坂井 孝治	高木しのぶ	鈴木 敏江	木内 信雄
吉村 清江	藤田 妙子	山本 滝子	出口 愛子	金子 正邦	齊藤久仁子	山崎 秀夫
坂下 政子	小林 眞澄	新井 清子	澤村千津子	堀越 英行	山口 弥生	小宮 昇治
遊馬 正子	藤沼 次男	野本由紀子	櫻井 春子	佐久間幸恵	伊藤 直	和田 静江
志賀口博人	島田 桂子	小宮久美子	稲塚由美子	下開 慶一	小貝 智章	小泉 朋子
西村 良夫	清水 政代	足立由美子	式見 恵子	梅原佐知子	金井 優子	増山 元美
宇田川 毅	福原 稔	山本 住子	石崎 裕一	宇田川伸孝	高橋さだ子	稲田 益巳
浅香 博子	鈴木 健治	佐藤 洋子	大内美智代	齊藤千恵子	高橋 良子	瀬山 春美
小林美代子	小木曾ひろみ	金宮 和代	谷古宇マサ子	田中美代子	石鍋 勝政	中里奈奈世
町井 良文	金子みどり	貝間 正敏	石井 達雄	益塚 賢治	西野いちよ	齋藤 敏彦
寺山 早苗	首藤 広行	鈴木 恒雄	近 ミサ子	河内富士子	高橋 絹江	岡村 徳重

全国社会福祉協議会会長表彰

(基準日＝令和3年4月1日現在)

在職21年以上で功績顕著な方(1名)

川上 重昭

東京都社会福祉協議会会長表彰

(基準日＝令和3年10月1日現在)

在職9年以上10年未満で功績顕著な方(1名)

遠間 道也

受賞者の皆さん おめでとうございます



足立区表彰

(基準日 = 令和3年10月1日現在)

社会福祉功労

在職10年以上で功労顕著な方 (80名)

鈴木 昭	大熊 純子	平瀬 美保	古屋 恵子	吉田 祐一	谷茂岡 昭	田中真季子
江川 明美	鶴田 晴久	下島 利代	坂井 孝治	高木しのぶ	鈴木 敏江	木内 信雄
吉村 清江	藤田 妙子	山本 滝子	出口 愛子	金子 正邦	齊藤久仁子	山崎 秀夫
坂下 政子	新井 清子	堀越 英行	山口 弥生	小宮 昇治	遊馬 正子	藤沼 次男
野本由紀子	櫻井 春子	佐久間幸恵	伊藤 直	和田 静江	志賀口博人	小宮久美子
稲塚由美子	下開 慶一	小貝 智章	小泉 朋子	西村 良夫	清水 政代	足立由美子
式見 恵子	梅原佐知子	増山 元美	宇田川 毅	土屋 幸夫	山本 住子	石崎 裕一
高橋さだ子	稲田 益巳	鈴木 健治	佐藤 洋子	大内美智代	齊藤千恵子	高橋 良子
瀬山 春美	小林美代子	小木曾ひろみ	三浦 仁子	金宮 和代	谷古宇マサ子	田中美代子
石鍋 勝政	中里奈奈世	町井 良文	金子みどり	貝間 正敏	石井 達雄	益塚 賢治
西野いちよ	齋藤 敏彦	寺山 早苗	首藤 広行	鈴木 恒雄	近 ミサ子	河内富士子
高橋 和枝	高橋 絹江	岡村 徳重				

令和三年度 足立区民生・児童委員協議会の動き

月	当初の予定	実際の動き
4月	各地区別自主研修	予定通り実施
5月	PR週間事業	区立図書館に「民生・児童委員PRコーナー」の設置のみ実施
6月	会長協議会視察研修	中止
	足立区民生・児童委員協議会総会	書面開催に変更
	ケースワーカー懇談会	中止
7月	熱中症予防のための戸別訪問	電話による啓発活動までにとどめた
8月	全員研修会	書面開催に変更
	夏季懇親会	中止
9月	敬老祝い品贈呈事業	対象者のお宅への訪問を見合わせ、区役所より郵送にて贈呈
10月	合同地区協議会視察研修	講義形式の研修会等に変更
	赤い羽根共同募金活動	駅頭での募金活動は行わず、11月期合同地区協議会で民生・児童委員からの募金を募った 募金総額：483,638円
11月	オレンジリボンキャンペーン	中止
	要保護児童対策地域協議会地区連絡会議	書面開催に変更
	ケースワーカー懇談会	中止
	東京都民生・児童委員大会	中止
12月・2月	各地区別自主研修	2月に実施予定であった地区は延期とした
1月	会長協議会・合同地区協議会（新年会）	中止
2月	各種表彰受賞者祝賀会	開催延期
3月	こころの健康フェスティバル バザー出店	中止

※新型コロナウイルスの感染状況に応じて、各事業の開催を変更・中止した



合同地区協議会視察研修（講義形式）



第二合同

視察研修会を終えて

視察研修会は、民生・児童委員が日頃の活動を担うため、近隣施設に足を運び、実際の様子を伺う事が目的でした。しかし、今回はコロナ禍により講義形式で行い、昨年の10月28日午後2時から足立区勤労福祉会館2階にて、「薬物」をテーマに2部制で開催されました。

第1部は警察の方に「薬物依存」について講演頂きました。内容は、依存症状とその対策について、様々な薬物が簡単にネット上で買えることができ、若年層まで広がっているのが大きな問題なのです。衝撃的だったのは12歳の子供が使用していたという事実でした。薬物蔓延防止の為に様々な取り組みをしている事が改めて勉強になりました。

第2部は特定非営利活動法人東京ダルクの方々に登壇していただき、自分の体験を赤裸々に話していただきました。なかでも虐待や孤独から薬物に手を染めたり、仕事の効率を上げる為に薬物に頼ったり、現代社

会の闇や暗部を垣間見たような気がしました。

更生施設の「ダルク」に入所し、他の仲間と共同生活することによって自らを律し、励まし合い、二度と薬物に手を出さないように日々頑張っていることを聞きました。薬物からの誘惑を1日でも早く断ち切り、社会復帰できるように心の中で願い、実体験を他人に語るにあたり、またいつか薬物に手を染めるかもしれないという肺腑を抉るような言葉や隻句が私の耳（心）に残りました。改めて彼らの勇気に感謝し、1日も早い社会復帰を願わずにはいられませんでした。薬物依存との境界線は、紙一重であり、いつ自分の身がそうならないという保証はないと感じました。

最後にスローガン「薬物の甘い誘惑 断つ勇氣」を胸に刻んで、いかがわしい物には近づかない、はっきりと拒否するという意識を常に持ちたいと思いました。

（18地区 富澤久男 記）

第三合同

10月期研修会報告

令和3年10月13日、梅田地域学習センター4階ホールに於いて『民生・児童委員の関連機関との連携を学ぶ』をテーマに研修を開催しました。

実施に向け、コロナの収束が見えない中、交通機関を使っでの研修は困難と考え、講演会の開催を決定しました。テーマは、当時の活動実態のない状況を考慮しました。「今期新任の委員は民生・児童委員の役割（仕事）がわからないのでは？」「経験豊富な委員も、コロナ禍の活動状況から、今までの活動の見直しと確認を図るべき」等の意見があがり、行政が民生・児童委員に求める事を確認する講演会と決めました。そこで、民生・児童委員が相談を受けた際に伺う機会の多い福祉事務所と、社会福祉協議会に講演を依頼しました。

社会福祉協議会は主な取り組みや民生・児童委員とのかかわり、福祉事務所は窓口となっている生活保護の内容や、支給の仕組みなどについてどちらも資料を活用して分かりやすく講演頂きました。最後に民生係から当地区で検討している班体制活動についての教示もありました。

講演会を拝聴して、民生・児童委員の仕事は地域の人々の困り事を自分で解決するのではなく、行政の窓口につなぐ事と改めて確認し、平素の活動も近隣地区の民生・児童委員と支え合う班活動を進めることで新任の委員の不安も払拭されたとともに委員個人の負担も軽減されたと感じました。

（6地区会長 田中礼子 記）



「おいしいあじさい」
西伊興小 3年 中野 瑠大 作



部会・委員会活動「子育て支援研究部会」

令和3年10月19日、総合ボランティアセンターにおいて、子育て支援研究部会が行われました。

あだち子ども支援ネットの代表、大山光子氏（元主任児童委員）をお迎えして、ご自身が様々な活動を通して関わってきた子ども達の現状を講演してくださいました。

大山氏は、長年にわたって、子ども達の居場所を作ってくれました。食事を提供することを通して、一人ひとりのお子さんに関わり「昨日からごはんを食べていない」「家に誰もいない」「味噌汁を給食以外で初めて飲んだ」など、子ども達の声によって、その家庭が垣間見えるとの事でした。



子ども達の声によって、その家庭が垣間見えるとの事でした。

そのような子ども達に、ずっと寄り添ってこられた大山氏は、「支援というよりも楽しさと気づきがあり、できる時にできる事をやってきた結果、人手の足りない時には助けがあって続けてきた」と気負わない笑顔が印象的でした。

コロナ禍で、子ども食堂が開けず苦慮したとの事ですが、今はフードバンクからの支援もいただきながら、お弁当をご家族の分まで提供されているそうです。

最近では、ヤングケアラー（*）についての支援もされており、やはり支援ではなく見ていてあげる…というスタンスで関わっておられる様子でした。

この講演を通して、私たち民生・児童委員に何ができるだろうかと考えさせられた時間でした。

（8地区 渡邊千明 記）

*ヤングケアラー：通学や仕事のかたわら、病気や障がいのある家族をサポートしている、18歳未満の子ども。

赤い羽根共同募金

コロナ禍で赤い羽根共同募金は、2年続けて駅頭での募金活動ができませんでした。10月期の視察研修時、民生・児童委員に募金をお願いしました。

当たり前だった日常が一変した世界。それは、活動本来の意味を考え直すいい時間にもなりました。10

月の日曜日の改札口前、ボーイスカウトの子ども達の元気な声が響きます。「ほきんを、よろしく、おねがいしまーす！！」

ありがとう。今年こそは、私達も再び。心と心が、離れないように。

（竹の塚地区会長 小島千恵子 記）



地域の見守り役として、「気づく つながる いのちを守る」取組みにご協力ください

足立区では、「気づく つながる いのちを守る」をキャッチフレーズに自殺対策を進めています。関係者や区民の皆様へ、自殺対策に対する理解を深めていただくため、平成20年度からゲートキーパー研修を実施してきました。現在までに約11,800人に受講していただいております。

ゲートキーパーとは、直訳すると「門番」で、相談者の表情や様子から「いつもと違う」「気になる」変化に気づき「どうしましたか?」「眠れていますか?」と声をかけ、その方の話や思いを聴き、専門の相談機関につなげる人です。普段から様々な相談を受ける機会の多い民生・児童委員の皆様には、ゲートキーパー研修を必修研修と位置付けさせていただ



ております。初級、中級、上級と段階的な受講にご協力いただきまして、ありがとうございます。

自殺対策は、生きることの包括的な支援です。様々な関係機関の方や地域の方々との連携により、誰も自殺に追い込まれることのない、生き心地の良い足立区を目指しています。現在、コロナ禍で周囲とのコミュニケーションが減り、孤立した方が増えています。誰かに悩みを聴いてもらうことで、こころが軽くなることもあります。ぜひ、皆様方の日頃の活動の中で、ゲートキーパーとしての「気づく つながる いのちを守る」視点を活かしていただき「もしやと思われる方への声かけ」や「つなぐ支援」にご協力をお願いいたします。

（こころとからだの健康づくり課 記）



地域を訪ねて

西新井北町会

高道東公園「花の散歩路」三世代の花植えです。6月と11月、年2回の花植えは町会・子ども会の恒例行事です。足立区のビューティフル・ウィンドウズ運動で「町をきれいにして、犯罪をなくしましょう」に一役買っています。

おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、そして子ども達、みんなで美しい花壇に仕上げています。お孫さんと同居していない、おじいちゃん、おばあちゃんも参加です。重たい腰を折りながら、子ども達の手足となって一緒に花植えです。「はい 出来上がり！」出来た子ども達の歓喜の音が響きます。土いじりや、虫探し、終わった後のお菓子も楽しみのひとつです。

足立区から届けられる「花苗」と、西新井警察署生活安全課防犯係からも花を頂き、300個程を植えます。毎回、子ども達を含め45名前後の方々が「町をきれいにして、犯罪をなくしましょう」へ参加し、自分達で植えた花壇に喜びを感じています。防犯係からは「振込詐欺」「交通安全」「自転車盗難」「空き巣」

など、笑いを交えて面白く話され、花植えだけでなく、防犯への認識を高めることができ、とても有意義です。

私達の花植えは、十数年の月日が続いています。近隣の町会では、担う人が居なくなり中止された町会もあります。私達も高齢域に入りました。少しずつ動きづらく、疲れも抜けない様になって来ました。もう交代時期が来ています。

町会も若返り、そして花壇も長続きする様、願っています。

(西新井北町会副会長 天野源紀 記)



シリーズ「老後を考える」 らく・はやウォーキング

地域包括支援センター六月（以下、包括六月）の「介護予防教室」から始まった「らく・はやウォーキング」に参加しました。

朝9時、紅葉の木々が美しい保木間公園（竹の塚三丁目）での開催。私も含めて参加者は11名でした。体温チェックを済ませ、包括六月の職員の指導のもと、軽いストレッチ体操の後「無理せず」「自分のペースで」「疲れたらベンチへ」を合言葉にスタートしました。

* 普段歩いている速さで3分間

* 早歩き（なんとか会話できる程度の早歩き）で3分間（体調で2分間に短縮もOK）繰り返して

15分でワンセットとなります。

水分補給休憩をとり、再度ワンセットに挑戦。

「足元は見えない!」「かかとから着地!」と声がかかります。じっとりと汗ばむ程の運動量でした。包括六月オリジナルの「らく・はやウォーキングカード」に各自記録をつけ、来週の日程を確認し、速やかに解散となりました。

一日15分の早歩きを1週間で4日、早歩きの合計が60分になるように行なうと効果があり、始めて2週間を過ぎた頃には身体に変化が出始めて、病気の予防が期待できるそうです。

長引くコロナ禍の今だからこそ介護予防を、と考え

られた包括六月の職員の方々に感謝し、各自で無理なく継続していく事が大切であり、多くの公園で歩かれる方が増える事を願います。

(竹の塚地区 金宮和代 記)



◀参加者（左）とウォーキングコースを示す



地域活動団体ライブ交流会

「認知症でいいとも～地域みんなで暮らせる街づくり～」
視聴会（YouTubeライブ）



令和3年10月29日、第三合同10地区の横田和英
民生・児童委員がゲスト出演されたYouTubeライブ

配信を視聴するため、地域包括支援センター関原に行
ってまいりました。

YouTubeの内容は、認知症に関わる団体等が、足
立区梅田の認知症に関する様々な情報を発信・交流す
るものです。視聴会に参加した民生・児童委員から
「民生・児童委員と認知症に関わる団体が連携できる
と良い」「高齢男性介護者の支援ができるような動画
があれば嬉しい」などの意見が交わされました。

（10地区 渡邊進 記）

地域包括支援センターの協力で

2か月に1度、地域の民生・児童委員、町会・自治会
や商店街などの関係機関、絆のあんしん協力員が「地
域包括支援センター」に集まる「絆のあんしんネット
ワーク連絡会（以下、連絡会）」が開催されています。そ
の連絡会にて「地域には高齢者が集える場所がどのく
らい在るのか？」を調べる事になりました。会場、実施
頻度、形態、参加者人数などを調べ、活動拠点を地図に
落とし込んでみたところ、地域差が判明しました。

そこで、既存クラブの活動を調べ、あるいは運営関
係者のお話を聞く勉強会を開催。その結果以下の「居
場所」ができました。

1つは、参加予定者に男性が多そうなので「麻雀教
室」のあるサロンです。サロンにしたのは、町会への

入会率が低いことがあげられます。もう1つは、町会
組織の中に「寿会」を新設しました。例えば、町会員
の参加者が100円であれば、非町会員は200円にする
などして非町会員の参加を可能にしています。

設立してから間もない時期にコロナ禍となり、予定
通りの企画が実現できていません。地域包括支援セン
ターのセンター長によると、コロナ禍でも外で行う
「グランドゴルフ」「輪投げ」そして「ラジオ体操」は
継続して実施しているとの事です。

未だに新型コロナウイルス感染状況の収束が見えな
い状態ですが、一日も早く日常の生活に戻ることを
願っております。

（神明地区 矢澤敏臣 記）

足立区立第十一中学校

涼風が路地裏巡る散歩道	二年 堀口 結菜	太陽の光を集め輝く波	二年 根本 結衣	宿題へ手がつかぬ間に鳥巢立つ	二年 並木 充史	陽を浴びて球児の汗に光増す	二年 島田 和	夏の夜瞳にうつる大三角	二年 佐藤 りるら	リビングをスタジオムにする五色の輪	二年 川口 美桜	二年前姿を消した氷売り	二年 石井 漣
-------------	----------	------------	----------	----------------	----------	---------------	---------	-------------	-----------	-------------------	----------	-------------	---------

中学生俳句コーナー



「暗くてさわがしいおかしな森」
栗原北小 4年 阿部 珠子 作



広報紙「さくら」民生・児童委員にアンケート

足立区の民生・児童委員に広報紙「さくら」に対するアンケートを実施しました。

「さくら」の印象や今後取り上げて欲しい話題についての設問にご回答をいただき、自由意見では、「コロナ禍での取り組みや活動の紹介が印象に残っている」などの声をいただき、広報紙として地域の実情を

伝えることができた実感し、また今後の紙面づくりに大変参考になりました。

今後とも皆様に読みやすく、興味を持っていただける広報紙づくりを心掛けてまいります。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

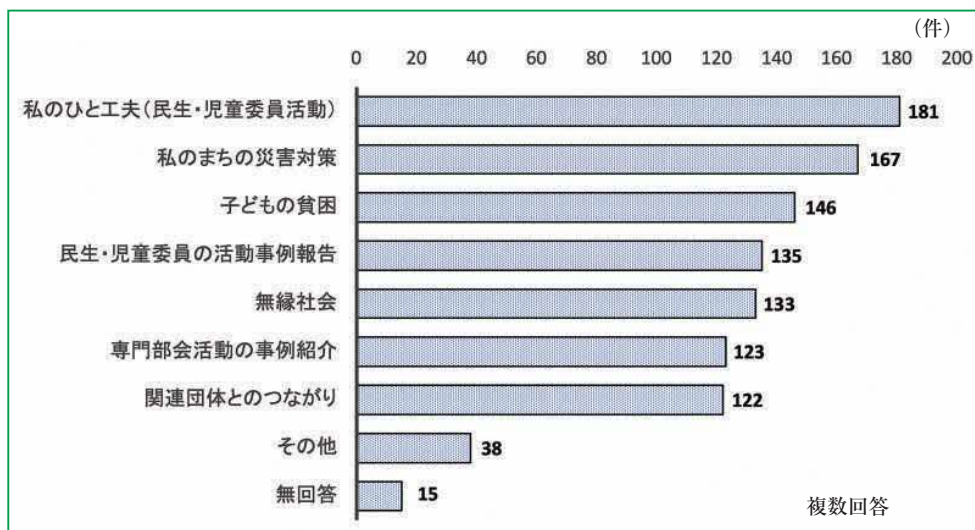
(広報委員会 記)

配布枚数	514
回収数	421
回収率	81.9%

	良い	まあ良い	ふつう	やや悪い	悪い	無回答
全体の印象	30.2%	39.2%	26.1%	0.7%	0.0%	3.8%
前回の印象との比較	23.8%	33.7%	35.9%	0.7%	0.0%	5.9%
読みやすさ	33.7%	34.0%	27.1%	1.2%	0.0%	4.0%
文字の大きさ	33.7%	31.1%	29.0%	2.9%	0.2%	3.1%
小・中学生の作品	42.8%	31.8%	20.0%	0.7%	0.2%	4.5%

質問
「さくら」の印象
について

質問
今後取り上げて欲
しい話題



<訃報>第七合同 17地区 佐藤 進(サトウ ススム) 委員 逝去 ここに謹んで哀悼の意を表します

編集後記

広報委員になってから、より「さくら」をきめ細かく読むようになりました。行事が中止になって各委員が協力して記事を集め、より良い広報紙「さくら」を目指しています。もう一度しっかり読み直し

いただけたら幸せに思います。

今後とも広報紙「さくら」をよろしく願ひいたします。

(6地区 鈴木政博 記)

- 小学生掲載絵画および中学生短歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。
- 原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。
- 皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。

次号発行予定日 令和4年7月1日

広報委員会

委員長 益塚 賢治 副委員長 齋藤 祐子 書記 高橋 純子 会計 小川 玲子 編集長 鈴木 健治 副編集長 金宮 和代 レイアウト 吉田 祐一 矢澤 敏一 校正長 足立 由美子 編集委員 杉本 和子 今井 幸博 鈴木 政博 渡邊 進 吉澤 恒江 木村 克博 鈴木 恒雄 校正委員 芦田 利恵 富澤 久男 坂井 成一 桐田 幸一郎 鶴岡 一夫 土屋 幸枝 神野 松江 齋木 安江